

# 実践6

# 芸術「音楽Ⅰ」

# 1学年

<b>科目の目標 (3)</b>	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
----------------------	---

## 題材名 「日曜日よりの使者」の弾き語り挑戦しよう！

題材の 評価 規準	観点	生徒の姿	主な評価方法・材料
	【知】	・曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。[知] ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。[技]	観察、「未来課題」ワークシートの記述 実演動画
	【思】	・音色を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	発言、「未来課題」ワークシートの記述 振り返りシートの記述
	【態】	・曲想と音色や音色と奏法との関係に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	観察、発言 振り返りシートの記述

## 「学びに向かう力」育成に向けた本単元における「未来課題」

<b>「未来課題」</b>	あなたは音楽プロデューサーです。新人歌手が「日曜日よりの使者」をカバーすることになりました。レコーディングに向けて、新人歌手に表現の工夫を解説し模範演奏してください。	
<b>本質的な問い</b>	表現するとはどういうことだろう。	
<b>6 要素</b>	<b>①目的</b>	根拠を持って表現を創意工夫する。
	<b>②役割</b>	音楽プロデューサー
	<b>③相手</b>	新人歌手
	<b>④状況</b>	レコーディングに向けた新人歌手の指導
	<b>⑤作品</b>	表現の解説と模範演奏
	<b>⑥評価</b>	【技】【思】を評価基準(ルーブリック)で評価(後掲参照)

### 【指導と評価の計画】

次 時	第1次	◆ねらい □学習内容 ○学習活動	評価観点			評価方法
			知	思	態	
	1時	表現するってどういうことだろう？ ◆ギターを知ろう ※「未来課題」の提示 □ギターについて ○ギターの名手たちの演奏を聴いて、そのよさや美しさを考える。 ○実際の楽器に触れながらギターの構造、部品の名称や役割について知る。 ○教科書の写真を参考に、弾きやすい姿勢を見つける。 □ギターに親しむ ○様々な奏法を試し、ギターで出せるいろいろな音を体験する。 □チューニングについて ○チューナーを使ってチューニングを練習する。				
	2時	□ストローク奏法にチャレンジしよう ○ダウン・ストローク、アップ・ストローク、オルタネイト・ストロークを練習する。 ○いくつかのリズムパターンを体験し、それぞれの雰囲気の違いを味わう。 □まとめ・振り返り				
	3時	◆簡単な曲を演奏してみよう □音階にチャレンジ ○ハ長調の音階を使って、「きらきら星」を演奏する。 □3つのコードにチャレンジ ○C、D、Gのコードの押さえを確認し、ストローク奏法で演奏する。 □「日曜日よりの使者」の弾き語りにチャレンジ	技			観察
	4時	○「日曜日よりの使者」について曲の背景などを知る。 ○G→C→Dのコード進行を練習する。(ダウン・ストローク) ○ストロークのパターンを変えながら練習する。 ○同じコード進行の繰り返しでも、ストロークのリズムパターンや強弱の違いによって変化する雰囲気の違いを感じ取り、奏法との関わりを考える。		思 ①		観察 ワークシート

5時	◆グループでアイデアを出し合って、表現を工夫しよう □前時に個人で考えた曲想と奏法との関わりを基に、場面ごとの奏法についてアイデアを出し、表現を創意工夫する。 ○歌詞の内容を手掛かりに、場面ごとの表現を話し合う。 ○音を出して試しながら、ストロークのリズムや強弱などを決める。				
6時	□表現を決定づけた手掛かりや、それによる表現の工夫をまとめる。 ○表現のポイントやその手掛かりを言葉でまとめる。 ○意図した表現になるように練習する。				ワークシート
7時	◆根拠を持って表現を工夫しよう □解説や演奏をグループで最終調整をし、映像に残そう「未来課題」 ○グループで場面ごとの表現を確認する。 ○中間発表 ○解説と演奏の録画し、Teams で共有する。	技	思 ②		観察 提出映像 「未来課題」
8時	□まとめ ○各グループの映像を鑑賞し批評する。 ○「表現するってどういうことだろう」に対する答えをまとめる。	知		態	ワークシート 振り返りシート

**【授業の実際】**

第5, 6時の流れ

1. 共有



前時に個人で考えた場面ごとのアイデアをグループで共有し、歌詞の内容を手掛かりに、場面ごとの表現を話し合う。

2. 試す



共有したアイデアを、実際に音を出しながら、リズム、強弱、奏法を工夫の視点として試行錯誤する。

3. 言葉でまとめる



試行錯誤し、話し合っただけで決めた表現のポイントやその手掛かりを言葉でまとめる。

4. 練習



意図した表現になっているかをお互いに確認しながら撮影に向けて練習する。

第7, 8時の流れ

1. 確認



前時に話し合っただけで決めた表現方法などを確認し、よりよい演奏になるための打ち合わせをする。

2. 中間発表



他のグループの演奏を聴くことで、自分たちの演奏を振り返り録音に向けて最終調整を行う。

3. 撮影	4. まとめ
	
<p>タブレット端末で演奏を撮影し、何回か撮影した中から納得のいく演奏のデータを共有する。</p>	<p>共有された映像を鑑賞し、自分たちの演奏を振り返る。ワークシート、振り返りシートを記入し提出する。</p>

### 【「未来課題」の実際】

曲を A～E の5つの場面に分けてそれぞれの表現方法について考える学習を行った。

ループリック(第7時の提出映像)	
技能	思考・判断・表現
A リズム、右手(ピック)の使い方、強弱を意識することによって、場面ごとに意図した音色の変化を表現している。	場面ごとの曲想の変化を奏法の違いによる音色の変化と関わらせて、聴き手が納得するような根拠に基づいて表現の創意工夫をしている。
B リズム、右手(ピック)の使い方、強弱のいずれかを意識することによって、場面ごとに意図した音色の変化を表現している。	場面ごとの曲想の変化を奏法の違いによる音色の変化と関わらせて、自分たちなりの意見に基づいて表現の創意工夫をしている。
C	Bを満たしていない

### 【「技能」の評価】

実際の演奏では、場面ごとにストローク奏法のリズムを変えて演奏することで、それぞれの音色に変化をつけることができていた(「おおむね満足できる」状況)。また、何名かの生徒は、教科書の譜例にはないアルペジオで演奏したり、強弱に合わせてピックの使い方を変えたり、ピックを使う場面と指で弾く場面に分けるなど表現がより明確になるように創意工夫していた(「十分満足できる」状況)。この表現の工夫の意図やその根拠を記述や口述で説明できている生徒は「思考・判断・表現」の評価も「十分満足できる」状況だと考えられる。

### 【「思考・判断・表現」の評価】

ワークシートには以下のような記述があった。ほとんどの生徒が曲想の変化を奏法の違いによる音色の変化やリズム、強弱と関わらせて考えている様子(「おおむね満足できる」状況)が見られる。

[生徒a]サビは静かなやわらかい感じにしたいので、アルペジオで弦を一つ一つおさえて優しく演奏する
[生徒b](Dの場面は)元気で楽しい感じにしたいので、譜例3(♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯)を使って少しずつ最後に向かって盛り上げる
[生徒c](Eの場面は)ダウン・ストロークで少し落ち着いた感じにしてだんだん弱くしていく

### 【「主体的に学習に取り組む態度」の評価】

各時の学習活動において、下表のような場面での生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、観察では見取ることができなかった生徒の取組状況は振り返りシートの記述を補完的に扱いながら、第8時に総括的に評価した。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント	
第1・2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な奏法を試す場面で、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、ワークシートに記入し他者に伝えようとしているか。</li> <li>譜例1～4のそれぞれの雰囲気の違いについて感じ取ろうとしているか。</li> </ul>
第3・4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲を演奏するのに必要な3つのコードを身に付けようとして取り組んでいるか。</li> <li>同じコード進行でもストロークのリズムや強弱の違いによる雰囲気の違いを感じ取ろうとしているか。</li> </ul>
第5・6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合っ、場面ごとの曲想やそれにふさわしい奏法の工夫をしているか。</li> <li>グループでの意見交換する場面で、根拠を持って意見を述べようとしているか。</li> </ul>
第7・8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで協力して映像を作成しようとしているか。</li> <li>「表現するってどういうことなのか」の問いに対して自分なりに答えようとしているか。</li> </ul>

＜振り返りシートの記述（生徒dの振り返り）＞

第5・6時	表現を工夫するためのポイントは？			←大事だと感じたことを3つ選び、その理由を記入しよう
	音色	速さ	ピック	奏法を工夫することで、同じ音でも違う音色に聞こえると思うから。ストロークの方法も工夫することで演奏に味？がでると思うから。
	右手		強弱	
ストローク	奏法	リズム		
第7・8時	表現するってどういうことだと思う？			←左の言葉を3つ以上使って自分なりの答えを記入しよう
	歌詞	リズム	速度の変化	リズム、強弱、速度の変化を工夫することによって曲の雰囲気を変えることが出来るから、それが表現するということじゃないかと思ってる。
	曲の構成		強弱	
音色	曲想	イメージ		

上の図は、生徒dの第5・6時(上段)と第7・8時(下段)の振り返りの記述である。第5・6時の振り返りでは、「音色」を思考・判断のよりどころとしながら、ストロークのリズムと奏法を工夫の対象としているのが分かる。第7・8時の振り返りでは、「リズム」、「強弱」、「速度」を工夫することで曲の雰囲気を変えることができるという気付きを基に、表現することについて自分なりの考えを記述している。この記述から曲想と音色や音色と奏法との関係に関心をもって学習していたことがうかがえる。他の生徒の振り返りシートの第7・8時の記述でも、「音色」へのこだわりや、「リズム」「強弱」「速度」を工夫の対象として曲想の変化を表現しようとしている(下表)。どの生徒も「表現すること」について自分なりに考え理解している。よって「おおむね満足できる」状況(B)と判断できる。

生徒	選択した言葉			振り返りシートへの生徒の記述(第7・8時)
e	リズム	速度の変化	強弱	表現とはリズムや速度の変化、強弱をイメージしながら演奏することだと思う。
f	音色	リズム	歌詞	歌詞はもちろんのこと、リズムによって曲の雰囲気がガラリと変わるから大切。音色も汚いときれいなので感じ方も全然違う。
g	音色	リズム	強弱	その歌詞に合ったリズムで、しっかりと強弱をつける。また、乱暴に弾かず、きれいな音色で丁寧に弾く。それが表現することだと思います。
h	リズム	速度の変化	強弱	表現するとは、自分なりにリズムや速度、強弱を場面や歌詞ごとに変えて、相手をより楽しませ、その音楽の世界に引き込むために工夫すること。
i	音色	リズム	強弱	リズムや音色、強弱を変えるだけで同じ曲でも悲しい曲のように感じたり、楽しい曲、落ち着いた曲などのように感じ方が大きく変わる。表現することは、一つの曲を雰囲気や感じ方の違う曲に変えること。

【実践の効果】

Q1	「音楽プロデューサー」として表現方法を伝えるという役割設定は、表現の工夫を考えることや、音楽を言葉で表現することに役立ちましたか？ → 肯定的回答 89%
Q2	「未来課題」に取り組んだことが積極的に授業に参加するきっかけとなりましたか？ → 肯定的回答88% Q2. に対して肯定的な回答をした理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が教えるとなると、できなければ意味がないと思ったから。</li> <li>課題があることによって、その目標を達成しようと積極的に取り組むことができた。</li> <li>新しい考えに気づけたし、自分の考えを持つことができた。</li> <li>自分から課題を見つけることで改善しようという思いが出てきたから。</li> <li>取り組んだおかげで音楽により興味を持ったから。</li> <li>どのようにしたらよいかイメージしやすかった。</li> </ul>
Q3	自分なりに表現を工夫することが以前と比べて楽しいと感じられましたか？ → 肯定的回答95%

Q1～Q3より、「未来課題」に取り組んだことに対して、事後アンケートでは、ほとんどの生徒が肯定的に回答している。特に Q2 の肯定的な理由からは、音楽プロデューサーという役割を演じることで、誰かに「教える」という視点がモチベーションになったことや、課題そのものや課題によって見通しが持ちやすかったことが読み取れる。また、グループ活動で新たな考えを得たことなども理由として述べており、「未来課題」に取り組むことが積極的に授業に参加する意欲となっているのが分かる。このことから、今回の題材では「未来課題」の設定が、学びに向かう力の育成にも有効だったと捉える。